

第7章 教育研究等環境

1. 現状の説明

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

本学は上野毛（世田谷区）と八王子に校地を有している。上野毛キャンパスは、都心に近く交通の利便性を活かし、わが国では初めて夜間に美術教育を行う造形表現学部（2014年度入試より学生募集停止）と美術学部（2014年度・統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科開設）のキャンパスである。八王子キャンパスは、美術学部と美術研究科のキャンパスであり、1998（平成10）年に社会のニーズ等を総合的に検証し美術学部の改組転換を行い、教育研究領域の改編を行った。この改組転換により、より高い専門性の確立を実現するための施設・設備が求められ、「八王子キャンパス整備計画」がスタートし、必ずしも十分でなかった校地の拡充と、老朽化が進んでいた施設の建て替えを同時に行った。

教育研究等環境について、モノづくりの大学である本学が最も考慮しなければならないことの一つは、学生の制作スペースを十分に確保した施設の整備である。ほとんどの学生の授業の大部分は実技演習であることから、八王子キャンパス整備計画において各学科棟を建設していく上で、常に念頭にあった事項である。現在、学生1人当たり面積では、最も広いのが彫刻学科（27㎡）、次いで工芸学科（17㎡）、生産デザイン学科テキスタイル専攻（15㎡）の順となっている。その他絵画系学科（約10㎡）、デザイン系学科（約6㎡）となっており、ばらつきはあるものの各学科においてそのカリキュラムポリシーに沿った教育研究環境が整備されている。

また、同整備計画に基づき、図書館、メディアセンター、工作センター等の共通施設が整備され充実した施設へと一変した。

他方、美術を学ぶための創作研究は、国内はもとより海外の個人や企業をはじめとする団体の諸々の動向を無視しては成り立たないものであり、そこから触発されるところも極めて大きい。各学科において、教育効果を一層高めるためカリキュラムの充実や編成の見直し等も行い、これに伴い施設設備の充実や機器等の導入は、教育研究等環境の整備を伴うものであり臨機応変に対応している。

2015（平成27）年9月にはキャンパス整備の掉尾を飾る「資料センター（仮）」が完成する予定であるが、そこには研究施設も設けられることから、研究環境も整備され一層の成果が期待されている。

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

2014（平成26）年5月現在の本学所有校地は、上野毛キャンパス 16,119㎡、八王子キャンパス 152,900㎡であり、校舎面積は、上野毛キャンパス 17,286㎡、八王子キャンパス 86,919㎡である。両キャンパスとも設置基準上必要な校地・校舎面積を十分に満たしている。

【上野毛キャンパス】

講義室・演習室等で 122 室を有しており、2014（平成 26）年には新たに開設した演劇舞踊デザイン学科専用の演劇舞踊スタジオ棟を新築した。

造形表現学部造形学科においては、制作方法の違いにより日本画は床張り、油画はリノリウム張りのアトリエとなっている。

デザイン学科では、サーバと教室間の幹線を光ケーブルで繋ぎ、ホームディレクトリへのアクセス速度の高速化を実現している。

映像演劇学科は、映像スタジオや専門的な撮影が行える写真スタジオ、更に演劇スタジオと工作スタジオを整備し、暗室も設置している。

【八王子キャンパス】

講義室・演習室等で 339 室を有しており、教育研究領域に対応する独立した施設と専門的設備等を整備し、高度な専門教育が行われる環境を実現している。

ア. 専門施設

絵画北棟、絵画東棟は、日本画、油画、版画の各専攻の施設であるが、制作技法の違いを考慮し、日本画専攻の実習室と展示室には床暖房を設置、油画専攻には、シルクスクリーン、テンペラ、フレスコの技法講座専門の部屋を設け、版画専攻には、刷台、プレス機、ローラーを備え、銅版実習室には、腐食室も併設している。また、自由デッサン室（大石膏室）を設け、各専攻共通で使用している。

彫刻学科については、木彫・石彫・金属・諸材料・塑造の領域ごとに建物が独立しており、その建物が連立した彫刻棟群を形成している。各棟には、大勢で同時に作業のできる広いスペースがあり、大きく重量のある作品も移動できるホイストクレーンを整備している。

工芸学科についてもガラス・金属・陶の領域ごとに建物が独立しており、その建物が連立した工芸棟群を形成している。ガラス棟には、ガラス溶解炉（200KG）を 2 機設置したホットワーク実習室、大型電気炉 2 機を設置したモデリング室があり、陶棟には、窯場に大型のガス窯 4 機と電気窯 4 機を整備している。

デザイン棟には、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻、環境デザイン学科ごとに専用のコンピュータールームとプレゼンテーションルームがあり、講義室には全てプロジェクター等を完備した AV 設備を整備している。

テキスタイル棟には、生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻で学ぶ様々な染織技術に対応できるスペースと機材が備わっている。染織実習、織実習はもとより、シルクスクリーン、インクジェットプリンターによる様々な布へのプリントやコンピュータ織機による制作が可能な設備を有している。

情報デザイン棟芸術学棟は、当該学科及び全学共通利用できるアートスタジオから構成されている施設であり、情報デザイン学科と芸術学科が交流を持てる建物として設計・整備している。

イ. 共通・共同施設

基礎教育科目等により教養教育を実現する講義室やレクチャーホール、更に共同施設として、教育研究の学際化に対応した所属学科等の領域外を学ぶメディアセンター、工作センター、第2工作センターがある。共同施設は、危険を伴う大型機械等を集中的に管理する施設であるとともに、教育研究の学際化に対応した施設である。メディアセンターは、コンピュータ編集室、メディア編集室、写真スタジオ、多目的スタジオ室等からなり、工作センターは、樹脂機械室、金属機械室、塗装機械室に分かれ、更に第2工作センターには、危険を伴う大型機械が集められており、学科等の枠組みを越えて素材や加工方法を学べる教育施設として、安全に作業が行える環境が整備されている。

八王子キャンパスでは、学習意欲の向上を目的として、各専門施設のメインエントランスにギャラリーを設置し、教育成果の発表が盛んに行われている。講評会を行い、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を促進する設備でもある。

本学の教育目標である「高い専門性と総合性の融合」を実現できる教育環境を目指し、建設整備の取り組みを行ってきており、専門性の高い施設・設備等と、領域を越えた教育を学ぶ共通・共同施設・設備等により、目標は達成されている。

【研修施設】

学生の研修を行う目的として、富士山麓セミナーハウス（山梨県山中湖村）、奈良古美術セミナーハウス（奈良市窪之庄）の研修施設を設けているが、施設の老朽化に伴い建て替え工事を行っている（2015(平成27)年創立80周年に竣工予定）。

【情報処理設備】

専門教育としては、他大学に先駆けて Mac（マッキントッシュ）を中心に導入してきた。また、コンピュータを使用した授業が多いグラフィックデザイン学科は、より高い専門性を実現するために数年ごとに機械を入れ替え、専門領域において常に社会のニーズに応えられる学生を育てている。

八王子キャンパスメディアセンターには、学生が自由に利用できるコンピュータを2部屋に設置しており、普段コンピュータにあまり接しないファインアート系の学生に対してリテラシー教育を行う場を提供している。

これら情報処理機器を有効に活用するために、早くから光回線によるデータ処理を採用し、光ケーブル基幹網が施設間を結んでいる。また、キャンパス間の垣根を越えて1998（平成10）年4月から学内ネットワークの整備が開始され、1999（平成11）年9月から学内LANの使用を開始した。現在では、有線LANと無線LANを並置し、両キャンパス内各所でワイヤレスによるパソコン接続を可能にしている。

【キャンパス・アメニティ】

ア. 学習意欲を向上させる環境整備—アート計画

アート計画は、キャンパスを作品で満たすことで、キャンパス全てを生きた創造・美術教育の場とする目的で計画された。

上野毛キャンパス本館には、建物正面に笠置季男によるファサード壁面の鉄板レリーフを設置している。講堂壁面には、過去に毎日国際美術展にも出品された建畠覚造によって制作された作品を設置している。

八王子キャンパスの正門北側には、本学客員教授 関根伸夫の彫刻作品、本部棟前には上野毛時代の歴史を刻む建畠覚造の彫刻、メディアセンター前には五十嵐威暢の彫刻作品等を設置している。

建物内にも中村錦平(本部棟玄関ホール)をはじめ、多くの作家の作品を設置している。これらはいずれも本学の教授陣や本学に関係した芸術家たちの手によるもので、作品を鑑賞することによる新たな発想と制作意欲の誘発が目的である。

イ. 学生の居場所の提供—厚生施設及び緑化

上野毛キャンパスは、1,500名の学生を受け入れられるよう設計されているが、現在は約800名の学生が9施設で学んでいるため、学生の研究や制作には十分な校地である。開学以来のキャンパスであり、中庭は緑に覆われ学生たちの憩いの場となっている。

八王子キャンパスは、「八王子キャンパス整備計画」に基づく整備により、キャンパス・アメニティを十分配慮しうる環境となった。1998(平成10)年に学生席300席と教職員専用ファカルティールーム60席を有したグリーンホール(食堂と売店、画材店を併設)が竣工したことで、キャンパス内に食堂が2カ所となり昼食時の混雑が緩和され、授業のない時間の休息の場所としても利用されている。2007(平成19)年に竣工した情報デザイン棟芸術学棟には、学生支援施設として軽食を中心としたカフェテリアとPC関連等を取り扱うショップやペーパーショップも併設されている。

他に多目的ホール(TAUホール)や学生クラブ棟等を備えているが、厚生施設だけではなく、積極的に緑化を進め落ち着いた環境で学生生活を送ることができるよう配慮している。絵画棟南側の二次自然林は、八王子キャンパス整備計画でも全く手を付けることなく昔のままの姿で大切に保全している。人工林としては、開校時に施工された旧グラウンド脇の桜と銀杏並木の面影をデザイン棟とグリーンホール間に再現し、開校時から大学とともに成長してきた木々を、構内の各所に移植することにより、歴史の息吹を大切に今に繋げている。また、敷地南側から西側にある広域緑道「むさしの道」(歩行者専用)に沿うように学内に並木を設け、周辺に対し積極的に緑を提供している。

テキスタイル棟北側の池は、周辺の雨水の調整池(貯水能力:1,000t)として、下方の大栗川に流れ込む水量の調整をしている。この池の周りには、テキスタイルデザインに関係するミツマタ、コウゾ、クワ等の植物で緑豊かな空間を造り、水辺空間による憩いの場、昆虫・水鳥・魚が棲める環境づくりを実践している。

また、両キャンパスには、無線LANが設置されており、共通スペースや中庭を中心とする各所でワイヤレスによるパソコン接続を可能にしている。

多摩丘陵の緑を生かしアートと共存させることによって、学生たちのコミュニケーションの場を配置している。

ウ. 駐車場・駐輪場

学生の通学に使用されるバイクや自転車のために、キャンパス内に2カ所の駐輪場を設置している。キャンパス北側駐輪場には、オートバイ約100台、自転車約300台、キャンパス東側駐輪場には、自転車約900台分の十分な駐輪スペースを設けており、近隣に違法駐輪がないよう取り組んでいる。

[施設利用への配慮]

ア. 施設の利用時間

各施設の利用時間は、次のとおりである。

上野毛キャンパス（美術学部、造形表現学部）

施設名	利用時間	利用期間	備考
講義室・実技室	平日 9:00～22:00 休日 9:00～22:00	校舎閉鎖期間以外	※休日、時間外の使用は担当教職員立会いのもと利用可
演劇スタジオ	平日 9:00～21:00	学事日程授業期間	
メディアセンター 映像スタジオ	平日 9:00～21:30	学事日程授業期間	
映像演劇学科演習室	平日 14:00～22:00	校舎閉鎖期間以外	※18:00以降と土曜は授業で使用
工 作 室	平日 14:00～17:10	学事日程授業期間	
図 書 館	平日 9:00～21:30 土曜 9:00～20:00	日曜・祝日、 校舎閉鎖期間休館	

八王子キャンパス（美術学部、美術研究科）

施設名	利用時間	利用期間	備考
実技室	平日 9:00～21:00 休日 9:00～17:00	校舎閉鎖期間以外	
講義室	平日 12:10～13:00 16:20～21:00 休日 9:00～17:00		
メディアセンター コンピュータスタジオ	平日 9:00～19:30 土曜 9:00～16:20		
メディアセンター 映像センター	平日 9:00～19:00 土曜 9:00～17:00	学事日程授業期間	※メディアセンターの各センターは、授業に関係する使用については、利用時間・利用期間にかかわらず可能な限り施設を開放して対応している。
メディアセンター 写真センター	平日 9:00～19:00 土曜 9:00～16:30		

メディアセンター 工作センター	平日 9:00~20:30 土曜 9:00~17:00		
図書館	平日 9:00~20:30 (休業期間中は17:00まで) 土曜 9:00~17:00	日曜・祝日、校舎閉鎖期間、 蔵書点検時は休館	
TAUホール	平日 放課後~21:00	校舎閉鎖期間以外	
体育館	平日 放課後~21:00 休日 9:00~17:00		
グラウンド	平日 放課後~21:00 休日 9:00~17:00		
テニスコート	平日 放課後~21:00 休日 9:00~17:00		

施設の利用については、授業期間終了後も各施設の利用可能な期間・時間を増やし、利便性が大幅に向上した。

イ. 障がい者への配慮

上野毛キャンパスでは、2002（平成 14）年に移動式の昇降機を購入し、エレベーターが設置されていない建物でも車椅子の昇降に対応できるようにした。2006（平成 18）年には 2 号館女子トイレの改修工事を行い、障がい者が利用できるトイレを設置した。

八王子キャンパスでは、1997（平成 9）年からのキャンパス計画で新築された各棟及び 2007（平成 19）年春竣工の情報デザイン棟芸術学棟、図書館、第二工作センターには、障がい者が利用可能なエレベーター及び建物内に最低 1 カ所は障がい者が利用できるトイレを設置している。

建物入口にはスロープを整備しており、車の駐車スペースもある。

1997（平成 9）年以前竣工の既存建物でも対策を講じており、共通教育センターや絵画東棟は、障がい者が利用できるようにトイレの改修工事を行い、2002（平成 14）年には絵画東棟の階段に常設の車椅子昇降機を設置した。

また、東日本大震災後には、共通教育センター棟の耐震補強を行うとともにエレベーターを設置した。

ウ. 施設・設備等の維持・管理

上野毛キャンパスは総務課が、八王子キャンパスは八王子校舎総務課と施設室が施設・設備の維持管理を行っており、同部署が学内の環境保全や防災、警備等に関する業務も所管している。

また、八王子キャンパスには、絵画北棟地下に中央監視室があり、構内の空調・照明・防災設備等をコンピュータにより集中管理できるシステムがある。このシステムは、本部棟、第 2 工作センター、情報デザイン棟芸術学棟に副受信室を持ち、そこでも異常の確認

と操作ができるようになっている。

校舎及び付属設備は、竣工図書等の図面を管理することにより維持管理を継続して行えるようにしており、建築基準法、消防法等の各法令を遵守し、機能保全、保安、清掃、衛生管理を行っている。

機能管理のために、各設備の法定検査等を行いその記録を保管するとともに、外部業者による補修工事を行っている。

保安管理については、24時間常駐で警備会社に業務委託を行っている。

清掃については、専任の用務職員で行っていたが、キャンパスの拡大と設備の増量と多機能化により、専任の用務職員から外部業者による業務委託に順次切替えを行っている。

教育設備については、美術大学という特性から、学生が制作に利用する大型の機械等が研究室や共通施設に設置されており、これらは技術職員や研究室の指導により利用できるようになっている。特に危険を伴う機械は、工作センターと第2工作センターに集約しており、使用にあたっては安全講習を義務付けている。研究室では各設備・機器の利用マニュアルを作成して学生に周知している。

(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

[図書館]

本学は、八王子キャンパスと上野毛キャンパスそれぞれに図書館を設置しており、学生教職員は両館の利用が可能である。八王子キャンパス図書館が本館機能を有しているが、上野毛キャンパス図書館が隸属する関係ではなく、上野毛キャンパスに設置された学部、学科の学修に役立つように活動をしており、それぞれの館が特色のある資料の充実を図っている。両館とも美術、芸術分野に特化した専門図書館である。

ア. 図書、学術雑誌、電子情報の整備状況

八王子キャンパス図書館には、約 152 千冊の図書（うち洋書約 62 千冊）と約 1,600 種の雑誌（うち洋雑誌約 700 種）、上野毛キャンパス図書館には、約 48 千冊の図書（うち洋書約 8 千冊）と約 600 種の雑誌（うち洋雑誌約 400 種）、両館合計で約 200 千冊の図書（うち洋書約 71 千冊）と約 2,200 種の雑誌（うち洋雑誌 1,100 種）を所蔵している。

蔵書のうち美術、芸術、デザイン、建築等の関連図書が両館とも全体の 3分の2 程度を占め専門分野に特化した蔵書構成となっている。

DVD、LD 等の映像資料の所蔵数は八王子キャンパス図書館で約 6,200 本、上野毛キャンパス図書館で約 2,400 本、両館合計で約 8,600 本となっている。所蔵のうち概ね 3分の1 は芸術関係が占めている。卒業後の進路志望として、アニメーション作家やキャラクターデザイン、映画関係や舞台美術を希望する学生も多く、娯楽映画、アニメーション映画の映像資料の充実にも力を入れており全体の半数近くに上る。

電子情報は 14 種程度の外部データベース（以下 DB という。）と契約している。契約 DB ごとの利用状況を検証すると活用頻度のばらつきは大きい。そのために試行錯誤をし

ながら契約すべき DB の入替えを行っている。利用頻度の高い DB は CiNii（国立情報学研究所の学術論文 DB）と Britannica Image Quest（画像検索 DB）、WHOPLUS（人物情報 DB）の3種である。他の DB の利用は低調といわざるを得ない。

電子ジャーナルについては、個別の契約はしていないが、2009（平成 21）年 12 月から契約している Art&Humanities Full Text の DB から芸術、人文分野の雑誌約 470 誌の全文を収録した電子ジャーナルを閲覧できる（資料 7-1、資料 7-2、資料 7-3、資料 7-4、資料 7-5、資料 7-6、資料 7-7）。

イ. 図書館の施設、配置人員、開館時間等

八王子キャンパス図書館は、本学の理念を具体化する建物を標榜し、八王子キャンパス整備計画の集大成として 2007（平成 19）年に新築された。総延床面積は 5,639 m²、開架スペースは約 2,500 m²で約 87 千冊（約 57%）が開架されている。図書閲覧席は 350 席あり収容定員の 10%相当が確保されている。本学は実技系大学のため現状の利用実績では閲覧席が満杯なることはない。また、別に視聴覚専用席に 41 席あり、視聴覚専用席を加えると収容定員の 11%相当の閲覧席が確保されている。そのほか、図書館資料を使ったゼミや学生のグループディスカッションのためのラボラトリー、成果発表等ができるアーケードギャラリーを備えている。

上野毛キャンパス図書館は、総延床面積は 1,003 m²、約 31 千冊（約 65%）の図書が開架されている。図書閲覧席は 80 席で収容定員の 10%が確保されている。別に視聴覚専用席は 5 席ある。

図書館職員については司書資格保有者中心で構成され専門能力を業務に生かしている。両館とも開館時間中は司書有資格者が必ず在館する態勢としている。

館内の情報検索設備については検索用 PC を八王子キャンパス図書館では 15 台、上野毛キャンパス図書館では 4 台設置している。これらの PC は契約 DB へのアクセスも可能である。また、自己所有の PC やスマートフォンから図書館 Web の OPAC に接続し資料を検索することが可能である。

年間開館日数は八王子キャンパス図書館で 250 日余、上野毛キャンパス図書館では 210 日余で推移している。通常開館日の開館時間は八王子キャンパス図書館で 9:00～20:30、上野毛キャンパス図書館では 10:00（2014 年度からは 9:00）～21:30 である。夜間まで開館しており利便性は確保されている（資料 7-8、資料 7-9、資料 7-10）。

ウ. 学術情報相互提供システムの整備

NACSIS には 2006（平成 18）年に接続をした。図書館間相互利用についてはファックスの利用により図書館間でやりとりをしている。申込みを受けると図書館員が WEB-CAT で検索し資料の取り寄せ等を行っている。図書館間の資料複写サービスは「取寄せ」・「提供」ともに多くはなく、特に「提供」サイドは少ないので NACSIS-ILL の必要性は乏しい。

エ. 美術館

美術大学という特性に応じた学修を達成するために、八王子キャンパスに近接する多摩センターに附属美術館を設置している。展示期間中の通常授業日には直行バス（無料）を運行し学生の利用を促している。美術館は独自の企画展、博士後期課程の発表展に加え、博物館相当施設として学芸員実習の受入れ機関となっている。

附属美術館は、2000（平成 12）年に八王子キャンパス内から現在地に移転開館した。総延床面積は 2,674 m²で展示室、多目的室、マルチメディアシアターを有する。美術館では歴史的美術から現代美術まで幅広いジャンルの創造の世界を紹介し研究創作活動の活性化を促すとともに、広く一般に公開し美術を通じた社会貢献も果たしている。日本はもとより世界各地の古代から現代までの美術工芸品、考古資料等やポスターをはじめとするデザインに関する資料、本学ゆかりの作家作品等多岐に亘り収蔵している。美術館には専任の学芸員を 3 名配置しており独自企画も盛んに実施している。例年博士課程展（博士後期の学位取得確定者）を実施し学位取得に関する研究成果の発表の場となっている。展覧会は課外授業にもしばしば利用される。また、附属美術館は博物館相当施設であり学芸員課程における学芸員実習を担っている。主な実習内容は、展覧会で供される展示作品の実物を準備、撤収等の段階で取り扱うという充実したものとなっている。本学正規学生のほか、科目等履修生や他大学等の実習希望者も受け入れている（資料 7-11、資料 7-12、資料 7-13）。

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

研究支援については、研究室・研究時間等の確保の環境支援及び個人研究費等の資金支援の両面から行っている。

研究室については、研究に必要な十分な研究スペースが確保されている。研究室の形態は一律ではなくそれぞれの学科等の特性や教員の希望を反映したものとなっており、個室型、広い研究室内に個人ブース設けるブース型、全員を見渡せるオープンスペース型等様々であるが、十分な面積と機能を備えている。

教員は、就業規則では 1 週 3 日以上の出校を基準としている。標準となる授業コマ数は、講義科目 5 コマ、演習科目 6 コマ、実技科目 10 コマとなっており、教育効果を最大限に引き出す授業時間と研究時間が確保されている。

また、学内で指定役職を兼務する場合には、負担に応じ担当コマの減数を認め配慮しており、教員にとって十分な研究時間の捻出が可能となっている。

研修についても、毎年 4 名程度の海外研修派遣制度（最大 1 年間）を設けており、本人の希望及び学科長の推薦により対象者が選ばれる。研修期間中の給与はもちろんのこと、航空運賃及び滞在費も支給され、研究に専念できる環境を整えている。作品制作や美術団体の展覧会等への参加も活発であり、国内外の学会活動等への支援は個人研究費で賄うこととしている。

個人研究費については、1984（昭和 59）年度に規程を制定し教員の研究活動に対する資

金として、支給している。個人の研究テーマに沿った書籍や機材・備品及び学会費、国内外への旅費、宿泊料等研究活動に対するものであれば、個人の裁量で幅広く利用できる。

また、学科等間や他組織に亘る教員グループによる学術研究に対しては、共同研究費を支給している。毎年 11～13 グループが選定され、合計 1,300 万円程度の支給実績となっている。研究費は、学術研究活動から研究紀要等への発表まで広範囲に活用できる。研究成果は、研究紀要・DVD 等の出版物をはじめ、作品の制作発表あるいは附属美術館等での展示、講堂での舞台発表、Web サイトでの公開等により積極的に発表を行っている。

大学による研究経費の負担を行わない産学官共同研究については、研究支援部において企業・行政等との窓口、契約支援を行っており、毎年 20 件弱の企業・行政等と共同研究の実績を上げ、着実に成果を上げている。

【メディアセンター】

学科組織やカリキュラムにとらわれず使用することのできる全学科の共同利用施設として、2001（平成 13）年にメディアセンターを設置した。メディアセンター運営委員会で運営方針等を審議し、より良い施設運営を図っている。共同施設であるメディアセンターは、危険を伴う加工機器を含む大型設備等を集中的に管理する施設であるとともに、教育研究の学際化に対応した施設である。

メディアセンターの設備は、コンピュータ編集室、メディア編集室、写真スタジオ、多目的スタジオ、樹脂機械室、金属機械室、塗装機械室等からなる。第 2 工作センターには危険を伴う大型機械が集められ、安全に作業が行える環境が整備されている。

【附置芸術人類学研究所】

研究活動の発信拠点として、2006（平成 18）年 4 月に芸術人類学研究所を設置した。本研究所は、芸術を機軸とし人類学を基盤として、芸術そのものを文明史の中に新たに位置付け直すことを目的としている。また、シンポジウムの開催により、大学の新たな社会貢献のかたちを模索している。

(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

公的研究費の管理・監査の体制整備を進めるため、2007（平成 19）年に研究支援部を設置した。

研究支援部では、学内研究費の管理、研究助成金等の獲得支援、公的研究費の執行管理、産学官共同研究の窓口・契約業務を担当している。研究倫理を遵守するための措置としては、関係規程の整備、内部監査の実施、研究現場の会議開催、個別説明会等を行っている。

2. 点検・評価

●基準 7 の充足状況

校地及び校舎面積は法令上の基準を満たしており、かつ必要な施設・設備を整備している。

図書館においては必要な質・量の図書、電子媒体等を備えており、専門的な知識を有する

専任職員を配置している。

また、専任教員に対しては研究費を支給し研究室を整備するなど、同基準をおおむね充足している。

① 効果が上がっている事項

「八王子キャンパス整備計画」によりキャンパスは整備され、メディアセンター、本部棟には、一部氷蓄熱システムによる冷房設備が導入され、夜間電力を利用し蓄熱槽に氷を作り、昼間にその氷を使い冷房を行っている。また、TAU ホールとレクチャーホールの屋上には、太陽光による発電設備を備えている。これらにより省エネと二酸化炭素排出量の削減に寄与している。

更に、TAU ホールと彫刻棟には、太陽熱の利用による温水シャワー設備を備えており、停電になった場合でも TAU ホール内に最低限の電気を供給でき、シャワーの使用が可能となっている。

多くの建物で雨水利用によるトイレ排水設備を設置している。この設備の導入により、自然エネルギーである雨水を積極的に利用することで、上水の利用を少なくし、節水を行っている。また、常時地下に水を貯めることで非常事態発生時（大災害等）における水の確保にもなり、通常時の使用はもちろん、緊急災害時の地域の緊急避難場所として機能することを考慮している。他に先駆けた設備を積極的に導入することで、環境へ配慮したキャンパスとなった。

「八王子キャンパス整備計画」において、当初新美術館の建設計画も存在していたが、大学の社会貢献、地域参加の拠点として、より多面的で実質的な活動や交流を社会で展開し、キャンパス内施設だけではなく市街地区での大学活動という戦略的視点から、多摩ニュータウンの中心的なターミナル駅である多摩センター駅前に、同地区としては唯一の美術館として 2000（平成 12）年 4 月にオープンした。

開館当初の段階では、美術系大学が運営する美術館としては稀有な存在であり、キャンパス外に美術館を有するのは日本で初めての試みであった。また、常設展のみならず企画展を開催し、学生に加えて学外からの利用者を誘致する一般公開に力を入れてきた。一般市民に対しても美術大学から発信していく試みが、広く社会における芸術活動の土壌拡大と発展に役立っている。

図書館では、新入生ガイダンスをはじめ年間を通して検索、論文執筆等項目別の図書館活用ガイダンス、主に大学院生を対象としたガイダンスを実施し図書館リテラシーを高めている。近時に実施した方策は貸出冊数の上限引上げ（従来の 2 倍）、閉架書庫の開放、上野毛図書館での土曜開館時間の延長、一部の映像資料の貸出開始、年度末考査期間と春期休暇中の長期貸出の開始、スキルアップや情操涵養に役立つ図書を新たに収蔵、館内貸出用のタブレット端末の設置、スマートフォンでの図書検索機能の追加等により利用者の満足度は向上している。

情報発信では八王子閲覧室の大テーブルを利用し司書がテーマを選定し両館の図書館資料

を陳列し所属学部、学科の枠外や社会への視野拡大、学習意欲の刺激に効果が上がっている。また、美術館との連携では企画展にあわせた関連資料を図書館で展示する等を行い、美術館の利用促進を図っている。

多摩美術大学附属図書館規則、多摩美術大学附属美術館規則に則り、それぞれの活動を通じ「教育、研究に資する」目的はおおむね達成されている。

② 改善すべき事項

施設・設備等の維持・管理について、上野毛キャンパスでは、以前は長期・短期計画を立てて補修等を行ってきたが、現在は対処療法的な補修等が中心となっており、専門的な視野に基づく長期計画が立てられていない。施設が全体に老朽化しており、安全と環境の両面での対応が急務である。

八王子キャンパスは、施設の整備により中央監視システム等の新しい設備を導入したことは高く評価できるが、専門的な人員を外部委託しており、これら設備を活かしきれていない。

また、図書館については、①未利用者、低頻度利用者の取込みと図書館リテラシーのレベルアップ、②上野毛キャンパス図書館の新学科（2014年度設置の統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科）対応と施設の充実、③八王子キャンパス図書館の設備の更改を推し進める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

各キャンパスに消防計画規程があり、その中に火災・地震・その他の災害についての計画が定められている。

防火管理については、防火対策委員会を設置し計画の作成及び実行、防火意識の普及と高揚、その他防火に関する対策を目標としている。また、自衛消防組織を編成して火災その他事故発生時の被害を最小限にとどめるよう努めている。

毎年1回、災害への意識啓発のため最寄りの消防署に指導を依頼して防災訓練を実施しているが、近年、地震による災害が多いことから災害備蓄品を点検・整備し、全学的な避難訓練を実施していきたい。

図書館サービスの向上はかなり進んできたが、不断の努力が必要である。これまで図書館所蔵の貴重資料（整理中）がほとんど活用されておらず、2015（平成27）年度には学生に開示していきたい。

また、美術学部新学科が上野毛キャンパスに設置され、八王子キャンパス図書館と上野毛キャンパス図書館の連携強化の必要性がこれまで以上に高まった。仕様統一、インフラ整備等を進めていきたい。

② 改善すべき事項

上野毛キャンパスは、新学科へ対応するため改修が不可欠であり、専門的立場で総合的かつ長期的視点の維持・管理体制を早急に構築したい。

八王子キャンパスの施設・設備等の維持・管理については、上野毛キャンパスに比して膨大であることから総合的かつ長期的視点での管理体制を構築する必要があると認識しており、2008（平成 20）年 4 月からビルメンテナンス専門の管理業者への業務委託を行っている。これにより建物維持管理・整備・修繕に至るまで、専門的立場で総合的かつ長期的視点の維持・管理マネジメントが可能となったが、現状を分析し、より安全で環境に配慮した施設整備を目指していきたい。

また、2015（平成 27）年には資料センター（仮称）が竣工予定であり、役割と機能の整理に加え、施設管理体制を整備していきたい。

図書館については、ガイダンスは裾野拡大とリテラシー深耕に有効であるが参加者が限られており、授業と連動することにより絶大な効果が期待できる。しかし、現在のところ厳密な授業関与は 1 学科のみであり、2015（平成 27）年度には大学院と 5 学科、更に 2017（平成 29）年度までには全学科に拡大していきたい。

上野毛キャンパス図書館は、造形表現学部が募集停止となり、2014（平成 26）年度に美術学部の新学科が開設されたことで、新学科の教育、研究、学修に必要な資料を充実させることが喫緊の課題である。2017（平成 29）年度、新学科が完成年度を迎えるまでに資料、設備の充実を順次図りたい。

八王子キャンパス図書館は、2017（平成 29）年度に開館 10 周年を迎える。竣工当時は、本学の意図を反映した最新鋭かつ斬新な設備であったが、一部に劣化や使い勝手に支障が生じてきた。10 周年の記念年までに現在の設備の目標達成度や利用環境を総括し、新たな視点から利用者のアメニティー向上のため設備の更改を進めたい。

4. 根拠資料

- 7-1 多摩美術大学図書館（八王子キャンパス）（パンフレット）
- 7-2 多摩美術大学 八王子図書館 利用の手引き
- 7-3 多摩美術大学 上野毛図書館 利用の手引き
- 7-4 平成 25 年度 主要指標の実績
- 7-5 図書、資料の所蔵数
- 7-6 図書・定期刊行物（雑誌）の受入れ推移
- 7-7 契約データベース利用実績・推移
- 7-8 学生閲覧室等
- 7-9 図書館職員の人員体制
- 7-10 開館時間・開館日数
- 7-11 多摩美術大学美術館 ご利用案内（パンフレット）
- 7-12 美術館の展覧会実績
- 7-13 美術館の学芸員実習生受入れ実績